

研究シーズのタイトル

ネグレクト児童に対する学校ソーシャルワーク実践に関する研究

研究者名

奥村 賢一

所属

人間社会学部

研究シーズの専門分野

学校ソーシャルワーク, 子ども家庭福祉

研究シーズのキーワード

学校ソーシャルワーク, スクールソーシャルワーカー, 拠点巡回型, ネグレクト, マルトリートメント

研究シーズの概要

近年、学校現場では不登校、いじめ、非行、暴力行為等、さまざまな教育課題の対応に追われている。それらの背景には虐待や貧困など、家庭生活上に抱える社会問題が複雑化・多様化して潜在していることが少なくない。本研究では、児童虐待の一つであるネグレクトに着目し、そのような状況にある児童生徒の教育保障を実現するため、スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）に求められる専門的役割や機能を明らかにしていくとともに、拠点巡回型で支援活動を行うSSWの学校ソーシャルワーク実践モデルの開発に取り組んでいる。 マルトリートメントの環境にあるネグレクト児童の状況改善には、学校教職員のよる多職種協働を基調としたチームアプローチが重要であり、それらを実現するための学校版ケースマネジメントの手法を体系化するとともに、保護者に対する伴走型の子育て支援のアプローチ方法を拠点巡回型SSW対象の実証的研究から理論化を行った。

研究シーズの適用分野

本研究の適用分野は、教育と福祉を中心とした関連領域である。学校現場が抱える種々の教育課題の背景には、学校・家庭・地域における生活課題が潜在していることが多い。これらの状況を改善していくために文部科学省は「チームとしての学校」を掲げて、スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）等の教員以外の専門職増員を目指し、多職種連携に基づく学校体制作りに着手している。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休校など、子どもを取り巻く学校教育は多くの制限が強いられるなか、新たな生活様式を確立して新時代に対応した教育保障を目指していく必要がある。虐待や貧困などの社会問題も依然として深刻化の一途を辿っており、SSWには学校を基点に福祉・医療・司法・保健等、地域に根差したネットワークづくりのキーパーソンとしての役割が求められている。そのためにも、本研究では他専門分野との横断的研究を重視して取り組んでいる。